

平成22年度

4つの財務諸表から見た市の財政状況

「市の会計」や「市に關係する会計」の決算について、資産や負債の状況、また資金の収支状況などを明らかにするため、企業会計的手法を取り入れ、各会計を連結した財務諸表を作成しましたのでお知らせします。平成22年度決算は、平成21年度決算に比べ、資産は減価償却などにより約4億円減少し、負債は地方債の借入残高の減少などにより約27億円減少しています。

問合せ/財政課 ☎233

連結決算の対象一覧

市の会計

- 一般会計
- 鶴瀬駅西口土地区画整理事業特別会計
- 鶴瀬駅東口土地区画整理事業特別会計
- 水道事業会計
- 下水道事業会計
- 国民健康保険特別会計
- 老人保健特別会計
- 介護保険特別会計
- 後期高齢者医療事業特別会計

市に關係する会計

- 埼玉県市町村総合事務組合
- 彩の国さいたま人づくり広域連合
- 埼玉県後期高齢者医療広域連合
- 入間東部地区衛生組合（火葬場の管理、し尿処理）
- 入間東部地区消防組合
- 志木地区衛生組合（ごみ処理）
- 入間東部福祉会
- 富士見市土地開発公社
- 富士見市施設管理公社

行政コスト計算書

医療費の助成やごみの収集など、資産形成以外の行政サービスの提供にかかった費用と、そのサービスの対価として得られた収入を示したものです。子育てに関する給付や施設の維持補修などの経常的な費用約464億円を支払うために、使用料や負担金などの経常的な収入約165億円が使われており、不足額約300億円は、市税や国からの交付金などで補っています。

経常的な費用		464.1億円
人にかかるコスト	人件費、退職手当の引当金のために必要なお金など	66.9億円
物にかかるコスト	固定資産の減価償却費、施設などの維持補修費、備品の購入費用など	96.2億円
移転支的コスト	社会保障給付（子育てに関する給付など）、補助金など	287.7億円
その他のコスト	借入金の支払いなど	13.3億円
経常的な収入		164.5億円
使用料・手数料		6.3億円
分担金・負担金、保険料、上下水道料金など		158.2億円
純経常行政コスト（経常的な費用－経常的な収入）		299.6億円

純資産変動計算書

純資産（貸借対照表の資産から負債を差し引いた額）が、平成22年度中にどのような要因で増減したのかを示したものです。

平成22年度当初の純資産残高		1,228.9億円
純経常行政コスト（行政コスト計算書より）		△299.6億円
財源の調達（市税、地方交付税、国や県からの補助金など）		299.3億円
その他（固定資産の減価償却費など）		△121.7億円
平成22年度末の純資産残高		1,106.9億円

貸借対照表 (バランスシート)

左側に、市が持っている資産（施設・道路・現金・債権など）、右側に資産を所有するために使った財源（負債・純資産）を示しています。平成22年度までに約1,586億円の資産を所有しています。このうちの約1,107億円は支払いが終わっており、残りの約479億円は未払いとなります。固定負債のうち借入金は、「市の会計」が約331億円、「市に關係する会計」は約16億円です。

資産の部（現在までの累積資産）		負債の部（将来の負担額）			
公共資産	固定資産 (庁舎、保育所、学校など)	1,460.0億円	借入金の残高	346.6億円	
	売却が可能と判断した資産	2.3億円	退職手当を支払うための引当金	70.8億円	
	投資や出資したお金 (公社への出資金など)	0.3億円	その他	9.3億円	
投資など	基金 (緑地保全基金、退職手当組合積立金など)	30.0億円	借入金のうち翌年の支払い予定額	39.1億円	
	その他	15.5億円	その他	12.8億円	
			負債合計	478.6億円	
流動資産	現金	37.4億円	純資産の部（現在までの負担額）		
	財政調整基金、市税などの未収金	40.0億円	純資産合計		1,106.9億円
	資産合計	1,585.5億円	負債および純資産合計		1,585.5億円

資金収支計算書 (キャッシュフロー計算書)

現金の出入りを3つに区分して、それぞれの行政活動における財源や使い道を示しています。経常的な行政活動の収支の差額約68億円で、公共資産整備の収支の不足額約21億円や投資などの収支の不足額約50億円を補っています。この結果、平成22年度末の資金の残高は約37億円となっています。

平成22年度当初の資金残高		40.8億円
経常的な行政活動に必要なお金 【支出】人件費、社会保障給付（子育てに関する給付など）、補助金など 【収入】市税、地方交付税、国からの補助金など		67.7億円
公共の資産を整備するために必要なお金 【支出】道路、学校、保育所の整備など 【収入】国や県からの補助金、借入金など		△20.9億円
投資などに必要なお金 【支出】借入金の支払い、基金への積立額など 【収入】国や県からの補助金、貸付金を回収した額、基金を取り崩した額など		△50.2億円
平成22年度末の資金残高		37.4億円